

科目名 Course Title	大学院共通授業科目(教育プログラム): 新渡戸カレッジオナーズプログラム大学院カリキュラム		
講義題目 Subtitle	グローバル発展科目 II		
責任教員 Instructor	ホイットフィールド デールリー [WHITFIELD Dale Lee] (高等教育推進機構)		
担当教員 Other Instructors	池 炫周 直美 [Hyunjoo Naomi Chi] (公共政策学連携研究部)		
科目種別 Course Type	大学院共通授業科目	他学部履修等の可否 Open To Other Faculties / Schools	可
開講年度 Year	2026	期間 Semester	2 学期(冬ターム)
授業形態 Type of Class	演習	単位数 Number of Credits	2
対象学科・クラス Eligible Department / Class	-	対象年次 Year of Eligible Students	-
時間割番号 Course Number	101236	補足事項 Other Information	-
ナンバリングコード Numbering Code	IGS_IDS 9211		
大分類コード・名称 Major Category Code / Title	IGS_IDS・大学院共通授業科目(複合領域)		
レベルコード・レベル Level Code / Level	9・その他(海外への留学を内容とするものなど、レベル分けが出来ない科目)		
中分類コード・名称 Middle Category Code / Title	2・キャリアマネジメント		
小分類コード・名称 Small Category Code / Title	1・キャリア開発		
言語 Language Type	英語で行う授業		
実務経験のある教員等による授業科目 Course list by the instructor with practical experiences	-		
キーワード Key Words	<p>「3+1の力」(能力更新力、組織形成力、社会還元力および専門職倫理)、体系的問題発見、フューチャーズ・リテラシー、エスノグラフィック・フィールドワーク、ホライズン・スキヤニング、シナリオ・プランニング、コーザル・レイヤード・アナリシス(CLA)、デザイン・フィクション、センスメイキング、ソーシャル・イノベーション</p>		
授業の目標 Course Objectives	<p>不確実性の高い現代において、課題を解決する能力は重要ですが、解決すべき正しい問題を定義する能力はさらに希少であり、極めて重要です。本科目では、「システミック・プロブレム・ファインディング」の実践に深く取り組み、「フューチャーズ・リテラシー」を用いて現在の前提を問い直し、新たに生まれつつある社会的ニーズを見通す力を養います。徹底したアクティブラーニング型カリキュラムを通じて、学生は「ユーズド・フューチャー(借り物の未来)」をアンラーニング(学習棄却)し、想像力を制限する文化的な神話を批判的に検討することで、持続的な「能力更新力」を培います。また、「ウィークシグナル(変化の予兆)」の多様な解釈をすり合わせ、複雑なエスノグラフィック・フィールドワーク(民族誌的実地調査)を協働で進める過程で、チームの「組織形成力」を磨きます。さらに、フィールドデータを説得力のある「問題の物語(ナラティブ)」へと統合することで、イノベーションが将来世代に及ぼす長期的影響を踏まえた「専門職倫理」に基づく姿勢を示し、そのうえで「社会還元力」を発揮します。</p>		
到達目標 Course Goals	<p>本科目の履修を通じて、学生は新渡戸カレッジ「3+1の力」の枠組みに基づいた自身の成長を示す具体的な「成果」を作成し、専門家としての能力開発を積極的に推進します。具体的には、以下の実践を通じてこれらを達成します。</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1)「ホライズン・スキヤニング」を用いて変化の予兆(ウィークシグナル)を捉え、「シナリオ・プランニング」を用いて現在の前提を揺さぶる複数の未来像を構築することで、「フューチャーズ・リテラシー」を育成する。</li> <li>2)「コーザル・レイヤード・アナリシス(CLA)(因果層別分析)」を適用して深層の文化的通年を解体し、「デザイン・フィクション」のアーティファクト(人工物)を用いた「エスノグラフィック・フィールドワーク」によって、ステークホルダーの率直な反応を引き出し、記録する。</li> <li>3)複雑な質的データを統合する「センスメイキング」を習得し、表層的な症状ではなく根本的な問題を再定義する「システミック・プロブレム・ファインディング」を可能にする。</li> <li>4)フィールドデータをもとに説得力のある「問題の物語(ナラティブ)」を構築し、ステークホルダーが長期的かつシステム的な課題に取り組む意欲を引き出すことで、「ソーシャル・イノベーション」を推進する。</li> </ol>		

## 授業計画 Course Schedule

本科目は全 8 回のモジュールで構成されており、「フューチャーズ・リテラシー」と「エスノグラフィック・フィールドワーク」の枠組みを統合して学べるよう設計されています。学生は、まず現在のバイアス(偏見)をアンラーニング(学習棄却)することから学び始め、続いてフィールドデータを統合するプロセスを通じて、表面化していないシステム上の課題を発見し、定義する力を身につけます。第 4 週(土曜)を除き、授業は 11 月 25 日から 1 月 20 日までの毎週水曜日、5・6 限(16:30~19:45)に行われます。

### 第 1 週 なぜ私たちは未来を見誤るのか (11 月 25 日)

変化を予測する力は、「ユーズド・フューチャー(借り物の未来)」と呼ばれる借り物の未来像を無意識に受け入れてしまうことで大きく制限されます。これらの筋書きを見抜き、解体する方法を学ぶことで、学生は他者が見落とす本質的な問題や可能性を発見するための想像力を取り戻します。

### 第 2 週 変化の予兆を見つける (12 月 2 日)

主要な社会変化を予測するには、明白なトレンドの背後に潜む、微細な変化の初期兆候を見つけ出す必要があります。「ホライズン・スキミング」を通じて、学生は環境中に現れる「ウィークシグナル(変化の予兆)」を捉える方法を学び、新たな課題が主流化する前にその兆しを認識できるようになります。

### 第 3 週 代替的な未来の構築 (12 月 9 日)

不確実性の高い状況を効果的に乗り越えるには、リーダーは、単一の予測に頼るのではなく、複数の可能性を考慮することが求められます。「シナリオ・プランニング」と「クリティカル・アンサーテンティ」の特定を通じて、学生は異なる未来像を構築し、既存の前提を揺さぶり、隠れたリスクを発見する方法を学びます。

### 第 4 週 メンターフォーラム (12 月 12 日)

学術的な研究と専門的な実務とのギャップを埋めることは、レジリエント(強靱)でインパクトのあるキャリアパスを設計するために不可欠です。メンターフォーラムでの経験豊かな専門家との対話を通じて、学生は社会的視野を広げ、将来の目標を実社会の要求に適合させるために必要な専門的ネットワークを形成します。

### 第 5・6 週 フィールドワーク — 実験的プロヴォタイピング (12 月 16 日・23 日)

抽象的な未来のシナリオを検証するには、ステークホルダーと直接関わり、彼らの本音の反応や潜在的な価値観を明らかにする必要があります。「エスノグラフィック・フューチャーズ・リサーチ(EFR)」を実施し、「ダイジェティック・プロトタイプ(物語的試作品)」のテストを通じて、学生は問題定義を現実に即したものにするために必要な定性的証拠(エビデンス)を収集します。

### 第 7 週 隠されたパターンを見つける (1 月 13 日)

散在するフィールド観察を実践的な洞察(インサイト)へと変換することは、仮説ではなく現実に根ざした問題を定義するために欠かせません。フィールドデータを丁寧に統合して核心となる課題を特定することで、学生は自らの発見をステークホルダーに明確に伝える、説得力のある「ビジュアル・ナラティブ(視覚的な物語)」を作り上げます。

### 第 8 週 フューチャー・フォーラム (1 月 20 日)

見過ごされがちなシステム課題の重要性をステークホルダーに理解してもらうには、複雑な調査内容を説得力のあるビジュアル・ナラティブへと変換することが欠かせません。学生は「ビジュアル・エスノグラフィック・ポスター」を作成して発表することで、フィールドワークから得た豊富な定性的エビデンスを用いて問題の緊急性を浮き彫りにし、自らの問題定義の妥当性を示します。

## 準備学習(予習・復習)等の内容と分量 Homework

学習の質を確保するため、学生は各授業の前後において、授業への能動的な参加に向けた資料の確認や、コンピテンシーの向上を正確に記録するための毎週の「リフレクティブ・エビデンス・ログ」(「成績評価の基準と方法」参照)の推敲など、予習・復習に取り組むことが求められます。本科目の主要な課題は授業時間内に完了するように設計されていますが、学生はこれらの活動のために授業外の時間を充てるのが推奨されます。なお、欠席者や、コンピテンシーレベルの向上を目指して評価課題の修正・再提出を希望する学生は、これらの課題に自主的に取り組む必要があります。

## 成績評価の基準と方法 Grading System

本科目では、コンピテンシー評価モデルを採用しており、学生は毎週提出する「リフレクティブ・エビデンスログ」を通じて、特定の専門的スキルを実際に示す能力で評価されます。学習負担を適切に管理できるよう、評価は授業時間内に実施できるよう設計されており、学生が作成・提出するための時間を確保しています。

エビデンスログは、新渡戸カレッジ「3+1 の力」の 27 の観点に基づくプロフェッショナル・ポートフォリオの基盤となり、グローバルリーダーを目指す全人的な学びの一部となります。各観点は 0 から 4 までの 5 段階のコンピテンシースケールで評価されます。これは成長を促す学習過程であるため、学生はフィードバックに基づいてログを修正・再提出し、履修を通じてコンピテンシーレベルを高めていくことが推奨されます。

**テキスト・教科書 Textbooks**

必要に応じて指示する。

Supplementary materials are instructed or provided, where appropriate.

**講義指定図書 Reading List**

必要に応じて指示する。

Supplementary materials are instructed or provided, where appropriate.

**参照ホームページ Websites**

<https://nitobe-college.academic.hokudai.ac.jp/>, <https://nitobe-college.academic.hokudai.ac.jp/en/>

**研究室のホームページ Websites of Laboratory**

特記事項なし

**備考 Additional Information**

本科目は、新渡戸カレッジオナーズプログラム大学院カリキュラムの主要科目の一つであり、新渡戸カレッジオナーズプログラム大学院カリキュラムで提供している。受講には同カリキュラムへの入校を認められた者であることが前提条件となる。

新渡戸カレッジオナーズプログラム大学院カリキュラムに入校についての詳細は、新渡戸カレッジのウェブサイトで確認できます：  
<https://nitobe-college.academic.hokudai.ac.jp/gs-curriculum/g-guidelines-for-applicants>

本科目に関する問い合わせ先：[nitobecollegegraduates@high.hokudai.ac.jp](mailto:nitobecollegegraduates@high.hokudai.ac.jp)